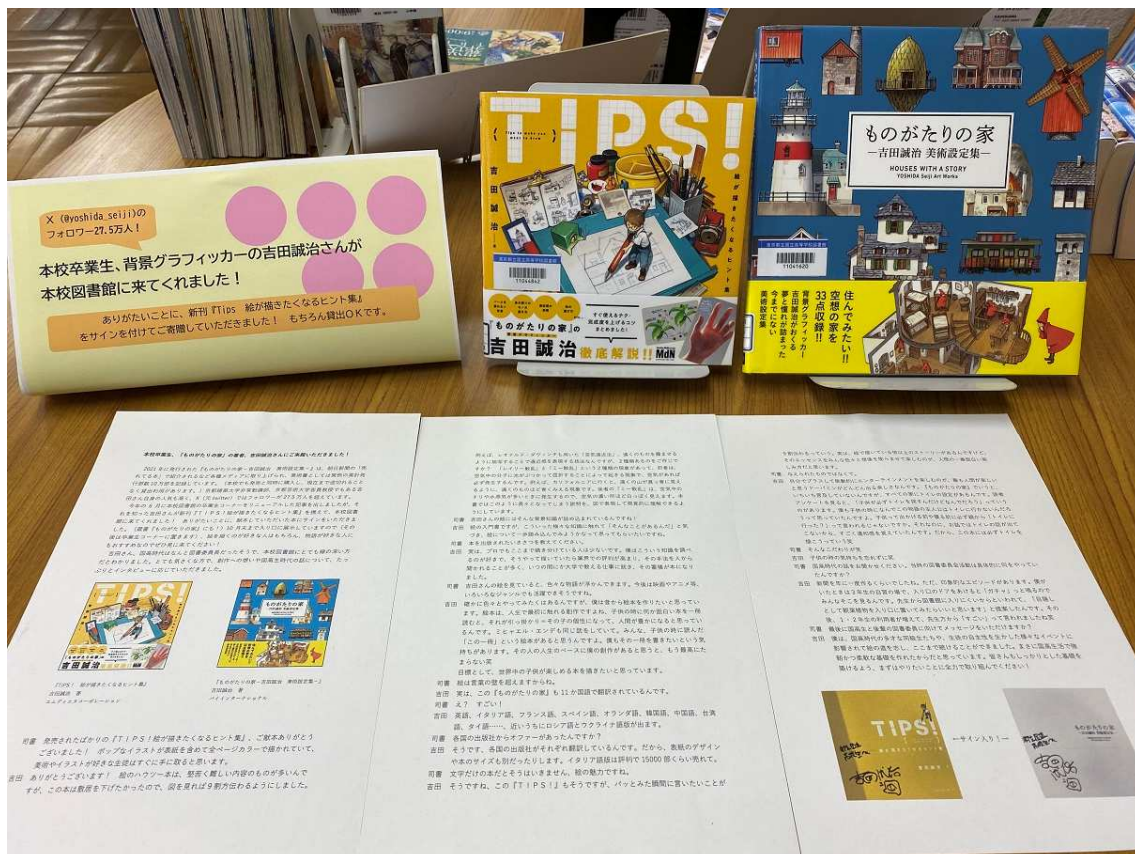


# 本校卒業生、『ものがたりの家』の著者、吉田誠治さんにご来館いただきました！



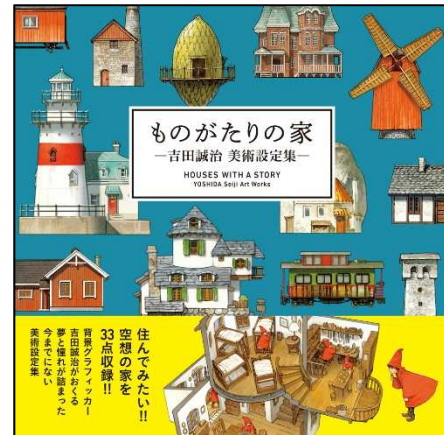
2021年に発行された『ものがたりの家-吉田誠治 美術設定集-』は、朝日新聞の「売れてる本」で紹介されるなど各種メディアに取り上げられ、美術書としては異例の累計発行部数10万部を記録しています。（本校でも発売と同時に購入し、現在まで途切れることなく貸出利用があります。）京都精華大学非常勤講師、京都芸術大学客員教授でもある吉田さん自身の人気も高く、X（元twitter）ではフォロワーが27.5万人を超えています。

今年の6月に本校図書館の卒業生コーナーをリニューアルした記事を出しましたが、それを知った吉田さんが新刊『TIPS! 絵が描きたくなるヒント集』を携えて、本校図書館に来てくれました！ ありがたいことに、献本していただいた本にサインをいただきました。（蔵書『ものがたりの家』にも！）10月末まで入り口に展示していますので（その後は卒業生コーナーに置きます）、絵を描くのが好きな人はもちろん、物語が好きな人にもおすすめなのでぜひ見に来てください！

吉田さん、国高時代はなんと図書委員長だったそうで、本校図書館にとっても縁の深い方だとわかりました。とても気さくな方で、創作への想いや国高生時代の話について、たっぷりインタビューに応じていただきました。



『TIPS! 絵が描きたくなるヒント集』  
 吉田誠治 著  
 エムディエヌコーポレーション 発行  
 インプレス 発売



『ものがたりの家 - 吉田誠治 美術設定集 -』  
 吉田誠治 著  
 パイインターナショナル

司書 発売されたばかりの『TIPS! 絵が描きたくなるヒント集』、ご献本ありがとうございました！ ポップなイラストが表紙を含めて全ページカラーで描かれていて、美術やイラストが好きな生徒はすぐに手に取ると思います。

吉田 ありがとうございます！ 絵のハウツー本は、堅苦く難しい内容のものが多いんですが、この本は敷居を下げてかったので、図を見れば9割方伝わるようにしました。例えば、レオナルド・ダヴィンチも用いた「空気遠近法」、遠くのを霞ませるように描写することで遠近感を表現する技法なんですが、2種類あるのをご存じですか？ 「レイリー散乱」と「ミー散乱」という2種類の現象があって、前者は、空気中の分子に光がぶつかって屈折することによって起きる現象で、空気があれば必ず発生するんです。例えば、カリフォルニアに行くと、遠くの山が真っ青に見えるように、遠くのものほど青くみえる現象です。後者の「ミー散乱」は、空気中のチリや水蒸気が多いときに発生するので、空気の濃い所ほど白っぽく見えます。本書ではこのように長々となってしまう説明を、図で表現して視覚的に理解できるようにしています。

司書 吉田さんの絵にはそんな背景知識が詰め込まれているんですね！

吉田 絵の入門書ですが、こういった様々な知識に触れて「そんなことがあるんだ」と気づき、絵について一步踏み込んでみようかなって思ってもらいたいですね。

司書 本を出版されたいきさつを教えてください。

吉田 実は、プロでもここまで描き分けている人は少ないです。僕はこういう知識を調べるのが好きで、そうやって描いていたら業界での評判が高まり、その手法を人から聞かれることが多く、いつの間にか大学で教える仕事に就き、その蓄積が本になり

ました。

司書 吉田さんの絵を見ていると、色々な物語が浮かんできます。今後は映画やアニメ等、いろいろなジャンルでも活躍できそうですね。

吉田 確かに色々やってみたくはあるんですが、僕は昔から絵本を作りたいと思っています。絵本は、人生で最初に触れる創作ですよ、子供の時に何か面白い本を一冊読むと、それが引っ掛かり=その子の個性になって、人間が豊かになると思っています。ミヒヤエル・エンデも同じ話をしています。みんな、子供の時に読んだ「この一冊」という絵本があると思うんですよ。僕もその一冊を書きたいという気持ちがあります。その人の人生のベースに僕の創作があると思うと、もう最高にたまらない（笑）

目標として、世界中の子供が楽しめる本を描きたいと思っています。

司書 絵は言葉の壁を超えますからね。

吉田 実は、この『ものがたりの家』も11か国語で翻訳されているんです。

司書 え？ すごい！

吉田 英語、イタリア語、フランス語、スペイン語、オランダ語、韓国語、中国語、台湾語、タイ語……、近いうちにロシア語とウクライナ語版が出ます。

司書 各国の出版社からオファーがあったんですか？

吉田 そうです、各国の出版社がそれぞれ翻訳しているんです。だから、表紙のデザインや本のサイズも別だったりします。イタリア語版は評判で15000部くらい売れて。

司書 文字だけの本だとそうはいきません、絵の魅力ですね。

吉田 そうですね、この『TIPS!』もそうですが、パッとみた瞬間に言いたいことが9割伝わるっていう。実は、絵で描いている倍以上のストーリーがあるんですけど、そのエッセンスをみんな色々想像を膨らませて楽しむのが、人間の一番面白い楽しみ方だと思います。

司書 与えられたものではなくて。

吉田 自分でプラスして能動的にエンターテインメントを楽しむのが、最も人間が楽しいと思うドーパミンがどんどん出る楽しさなんです。『ものがたりの家』でいうと、いちいち言及していないんですが、すべての家にトイレの設定があるんです。読者アンケートを見ると、「子供が必ずトイレを探すんだけどなんでだろう」というのがあります。僕も子供の時になんでこの物語の主人公はトイレに行かないんだろうって思っていたんですよ。子供って出かける前や寝る前に必ず親から「トイレに行った？」って言われるじゃないですか。それなのに、お話ではトイレの話が出てこないから、すごく違和感を覚えていたんです。だから、この本には必ずトイレを描こうっていう（笑）

司書 そんなこだわりが（笑）

吉田 子供の時の気持ちを忘れずに（笑）

司書 国高時代の話をお聞かせください。当時の図書委員会活動は具体的に何をやってい

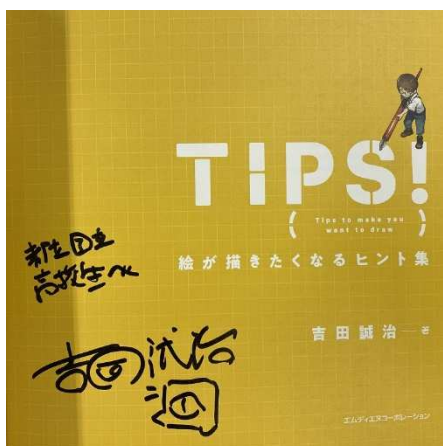
たんですか？

吉田 新聞を年に一度作るくらいでしたね。ただ、印象的なエピソードがあります。僕がいたときは3年生の自習の場で、入り口のドアをあけると「ガチャ」と鳴るのでみんなそこを見るんです。先生から図書館に入りにくいからといわれて、「目隠しとして観葉植物を入りに置いてみたらいいと思います」と提案したんです。その後、1・2年生の利用者が増えて、先生方から「すごい」って言われましたね（笑）

司書 最後に国高生と後輩の図書委員に向けてメッセージをいただけますか？

吉田 僕は、国高時代の多才な同級生たちや、生徒の自主性を生かした様々なイベントに影響されて絵の道を志し、ここまで続けることができました。まさに国高生活で強靱かつ柔軟な基礎を作れたからだと思っています。皆さんもしっかりとした基礎を築けるよう、まずはやりたいことに全力で取り組んでください！

司書 本日はどうもありがとうございました！



←サイン入り！→

